

# 小田原はロケの聖地だ!

『海のはじまり』で話題になった場所以外にも、小田原にはロケで使われた場所がたくさん! 皆さんが知っている場所も教えてね!



今号の編集長  
ひんどうよしみつ  
備堂能満

小田原ロケ地 MAP



発行月: 令和6年(2024年)12月  
発行者: 小田原文化レポーター

## いろいろ小田原とは?

小田原には古くからたくさんの文化が花開き、現在も活気ある活動が続いています。そんな小田原のアレコレを見つけたレポートをもっと多くの方に! という願いを込めて発刊しています。

カラー版はこちらから!

小田原市 文化レポーターホームページ内で過去の「いろいろ小田原」がカラーで見られます!



Instagramはこちらから!

「文レポ(文化レポーター)」が気になっている情報を載せています!

## 1 開館30周年を迎えた市立中央図書館が月9ドラマの舞台に! 『海のはじまり』の舞台となった 2024年 小田原市立中央図書館の裏話をご紹介します!



備堂能満

私は中央図書館で「かもめ図書館フレンズ」として、青いエプロンを付けてボランティアをしています。図書館で働く方にもドラマについて、いろいろ聞いてみました!

## あの青いエプロンは?

小田原市立中央図書館の司書として働くシングルマザーの女性が、同僚たちと新たな人間関係を結んだのもこの職場です。印象に残るのは青いエプロン。実際に目にするのは、ピンクのエプロンを身につけた業務担当の方々。でも、時折見かける青いエプロンも……。彼らは、かもめ図書館フレンズの皆さん、ボランティアグループの方々です。館内にあった活動紹介の掲示物を制作スタッフがご覧になって、ネーム入りの青いエプロンが採用されたのだそうです。

## 館内を飾る折り紙作品も



読み聞かせなどの場面で、何度も登場した折り紙装飾。とても良い雰囲気を作っていました。図書館フレンズはいくつかのチームに分かれており、折り紙装飾もその一つ。児童コーナーを彩る作品は来館者にも好評でした。これを使いたいとのスタッフからの要請を受け、場面に合う作品を選び、フレンズのメンバーが提供したそうです。時には、自分たちの折り紙作品ではないものが登場することもありましたが、別の場所での撮影のためにスタッフ側で用意されたものだったようです。折り紙が飾られた図書館というイメージがドラマの中で定着していたわけです。うれしいですね。フレンズの皆さんの作品は現在も館内に飾られていますよ。



ドラマ関係者が小田原が好きで、作品の舞台にしたいと思ってくださり、その小田原市に実在する施設として中央図書館が選ばれました。

## 中央図書館関係者に聞いてみた!



## 撮影後の反響は?

ドラマを観て、中央図書館(かもめ図書館)を懐かしく感じてくださった方が多くいました。図書館に足を運んでいただいたら本が読みたくなる工夫を施しております。ぜひ遊びに来てください。

「こんなところも見覚えありませんか?」



本を借りるカウンター  
※備堂さんはドラマに登場しません。



正面玄関



外のオブジェ『ハーモニー』



児童コーナーの机



カブトムシのオブジェ

# まだまだあります！ 小田原のロケ地

## 2 映画『ビルマの豎琴』

1956年 × 県立小田原高等学校付近



### ジャングルと巨大仏像が出現 / 予史重

小田原高校近くの樹林をビルマのジャングルに見立ててセットを組み、市川崑監督による映画の撮影が行われました。涅槃仏(ねはんぶつ)は、黒澤明監督の「羅生門」などの美術を担当した松山崇氏が作者だといわれていますが、ロケ後まもなく撤去。市内在住の込山千枝さんは5歳ぐらいの時、家族で散策中、その涅槃仏に遭遇、記念写真を公開してくれました。

## 3 映画『天国と地獄』

1963年 × JR酒匂川鉄橋周辺



### 身代金の鍵を握る酒匂川鉄橋 / しげじい

前半の重要なシーンで三船敏郎演じる身代金を支払う社長、そして刑事役の仲代達矢が、初めて犯人を垣間見る瞬間です。特急こだま号のトイレの窓の7cmの隙間から、身代金の詰まった靴を酒匂川の岸に落とし、それを拾う犯人が微かに見えます。後半における犯人との取引の緊張感あふれる都会での展開と、酒匂川の自然描写が鮮やかに対比しています。

## 4 映画『君たちがいて僕がいた』

1964年 × 青橋付近



写真「小田原高校の歩み」

### 60年前の小田原がよみがえる / ゆきぐま

①青橋から城山4丁目へ抜ける線路沿いの道、いま朝夕は通学の生徒があふれる。②青橋からの小田原城、千恵子(本間千代子)が駆け抜ける。③お堀端通りに今もある蕎麦屋さん。千恵子が高野病院に談判に行く。④洋(舟木一夫)の通う城山高校ならぬ小田原高校。洋と千恵子、その級友たちの青春・恋愛・受験と大人たちの陰謀が描かれ、懐かしい小田原がいっぱい。

## 5 ドラマ『義母と娘のブルース』

2018年 × 上府中公園



### 上府中公園がロケ地に / 予史重

綾瀬はるか演じるキャリアウーマンが、小学生の娘のいる男性と結婚し、義母となって母娘の絆を深めていく物語。原作は桜沢鈴の漫画(ぶんか社刊)。印象的なシーンが、小田原市東大友の上府中公園で撮影されました。たとえば、娘が自転車にうまく乗れず、何度も転倒しながら乗れるようになって、家族で喜ぶ感激の場面など。市役所みどり公園課には、今もこのドラマのポスターが貼ってあります。

## 6 ドラマ『ミステリと言う勿れ』

2022年 × 小田原文学館



### 菅田将暉主演の人気ドラマに小田原文学館が！ / RIE

第11話に、小田原文学館が登場しています！北村匠海さん演じる辻浩増が勤める、奇木細工ミュージアムという設定でした。白壁の素敵な文学館ですが、夜の殺人事件の舞台となり、白い外観が逆に不気味に……。余談ですが、ミュージアムの中は、箱根町の本間奇木美術館で撮影したそうですよ。

## 7 ドラマ『忍びの家 House of Ninjas』

2024年 × 皆春荘の表門



### 風魔忍者が悪役？！ / 広目子

徳川家に仕えた忍者の服部家と北条家に仕えた風魔一族の子孫が、現代社会で密かに忍び(しのび)として争う天外な物語が「忍びの家」です。服部半蔵の子孫一家と風魔一族が争う場面の舞台が小田原城や御幸の浜です。海への扉や赤い灯台も情緒豊かに描かれています。主役の晴役は貫来賢人、ヒロイン可憐役は吉岡里帆、祖母役に宮本信子、その仲間に白石加代子と名優が脇を固めて画面に重厚感をかもししています。

## 小田原三の丸ホールから、こんにちは！

注目ポイント①：小田原三の丸ホール 前庭

- レポーターが注目するホール情報をシェア -



小田原三の丸ホール  
小田原市本町1-7-50

開館時間：9時～21時

休館日：第1・3月曜日・年末年始(祝日の場合は翌日以降の最初の平日)

令和7年4月1日からホール目の前の「前庭」が、大・小ホール、展示室との併用等の条件付きで貸し出し開始！さらに使い方の幅が広がるホールに今後も期待。



前庭の利用についてはこちらから

## 他にもこんなロケ地が！

- ・ドラマ『ひよっ子』×お堀端通り、銅門
- ・ドラマ『弱くても勝てます』×旧バットングセンター金太郎、小田原漁港など
- ・ドラマ『火災調査官・紅蓮次郎』×小田原市消防本部
- ・映画『陽気なギャングが地球を回す』×小田原市役所

## ▼市ホームページで過去のロケ地情報一覧が見られますよ！

小田原市のイメージを全国に広く発信するため、映画、テレビなどの撮影を誘致・支援しています。これまで撮影に使われた作品名とロケ地が一覧になっていますので、ぜひ右のQRコードからチェックしてみてください！



## あなたにもエキストラとして出演するチャンスが？！

小田原市内でドラマや映画を撮影する際、エキストラを募集することがあります。以下媒体をチェックしていれば、あなたにも出演のチャンスが到来するかも！

- ・市ホームページ
- ・市公式X(旧Twitter)